

心理臨床センター紀要第23号：表紙,編集後記,奥付

メタデータ	言語: ja 出版者: 武蔵野大学心理臨床センター紀要編集委員会 公開日: 2024-04-10 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000281

武蔵野大学 心理臨床センター紀要

Annual Report of Musashino University Clinical Psychology Center

■ 原著

企業労働者における心理的居場所感とワーク・エンゲイジメントの関連
金澤愛 矢澤美香子

■ 原著

スピーチ課題の自己評価に対するビデオフィードバックと併用する
認知的介入の効果
渡邊美紀子 城月健太郎

■ 原著

逆境の小児期体験と性格傾向と感情可変性信念の関連
佐々木洋平 大久保亮 田淵貴大 城月健太郎

■ Original Article

An endeavor for a multidisciplinary case study—discussion on immigration and
adaptation from the perspective of Human Sciences: Part 2—
Megumi HATAKEYAMA, Somei SHICHIJI, Shohei YAMAGISHI, Keiko ASANO,
Yoshiko KITA, Keisuke TSUJI

■ 活動報告

武蔵野大学心理臨床センター活動報告（令和4年度）

編集後記（あとがき）

この心理臨床センター紀要においては、これまで編集後記（あとがき）は掲載されていませんでした。多くの心理臨床センターや心理相談室紀要では、何らかのあとがきが掲載されていて、私自身は先生方や各大学の様子などがよくわかり、書籍と同様楽しみにしている一部分でもありました。そんなことに今になって気づき、本センターの取り組みの記録的な要素にもなるのではと思い、執筆をしています。そうはいつても、是非ともこんなことを伝えたい・伝えなければならぬというわけではなくて、この一年の様子などが書き記され、後年そういう一年だったことが思い出されればそれでよい、というくらいに感じているまでです。

そういうわけで今年のことについて話を進めると、2023年度はコロナウイルスの感染症の対策や状況がおおよそ終息に向かい、センターでは対面の面接を通常に近づく形で実施していく一年であったように感じられます。2020年度からは、かなり制限された形で心理面接が進められ、閉室を行わざるを得ない時期もありました。この期間、スタッフ一同感染対策に取り組み、継続ができるよう尽力していただき何とか運営を続けることができました。マスク着用や手指消毒にとどまらず、日々の対策を行っていただき、試行錯誤しながらの対応でした。クライアントの方々にもご理解をいただきながら、何とか実践の活動を続けることができました。

一方、コロナ禍でオンラインカウンセリングやWebプログラムなど、多くの心理実践のスタイルが発展することになり、様々な心理療法の形へと広がりを見せ、効果も普及も進んだように感じられてもいます。一方で、対面形式の心理面接に戻るにつれて、直接お会いした中で得られる経験や効果については、やはり充実したものがあるとも感じられました。

本紀要においては、この困難な中、現代的な臨床心理学的課題について検討を行った原著論文やケース検討など、意欲的な取り組みをとりまとめた研究を掲載することができました。また、論文としての詳細はまとめられていませんが、センターにおいては相談員、大学院生などが日々心理実践に励行し、研鑽に努めております。また、外部の機関の先生方には実習で大学院生の方々の受け入れやご指導をお願いし、この点においてもコロナ禍においてこの上ないご配慮をいただきながら、実習を継続することができました。様々な困難な状況の中、多くの方々のご理解とご協力によって、当センターならびに各実習機関において、心理臨床にかかわる専門家養成を続けることができたことに、この場を借りて心より感謝申し上げます。

心理臨床センター長 城月健太郎
2023年11月24日

心理臨床センター
紀要編集委員会

編集委員長 城月健太郎
編集委員 菊池安希子
小西 聖子
今野理恵子
佐々木洋平
辻 恵介
出野美那子
中島 聡美
成澤 知美
矢澤美香子
編集事務補助 西内 基紘

武蔵野大学心理臨床センター紀要 第23号

2023年12月 印刷・発行

発行 武蔵野大学心理臨床センター 紀要編集委員会
住所 東京都江東区有明 3-3-3
印刷 株式会社ワコー